

# 西田哲学館ニュース

第2号 (2005/3/12)



石川県  
西田幾多郎記念哲学館  
Nishida Institute of Philosophy  
〒929-1126 石川県かほく市内日角井1 TEL (076)283-6600

## 李登輝前台湾総統が来館しました

平成16年12月30日(木)

観光のため日本を訪れていた台湾の李登輝前総統が、平成16年12月30日、哲学館に来館しました。李登輝氏は、自らの政治思想の基盤となるのは、西田哲学であると語ります。哲学館ならびに西田幾多郎の墓を訪れ、感慨深げな様子でした。

### 李登輝氏と日本、そして西田幾多郎

台湾の前総統・李登輝氏が、この年末年始12月27日～1月2日にかけて日本に「観光」に訪れ、その中で12月30日に、西田哲学館に来館しました。

李登輝氏は、日本が台湾を統治していた時代の台湾県に生まれ、学生時代を京都大学農学部で過ごし、終戦を日本軍司令部付き見習士官として名古屋で迎えました。

李氏にとって、平成13年の心臓病治療に来日したことを除けば、60年ぶりの日本訪問でした。

名古屋・京都・石川を一週間で移動する中で、最初の旅行計画では、和倉温泉から特急に乗って、石川県を離れることになっていましたが、李氏は「西田先生の故郷に行く」と言って西田哲学館訪問と西田幾多郎のお墓参りにかほく市を訪れました。

当日は名誉館長の大橋良介先生も来館して李氏を案内し、二人で西田哲学の「場所の論理」についての対話をし、企画展「禅と西田幾多郎」も一緒に観覧しました。

### 西田幾多郎への思い

その李氏自身の旅行手記がVoice3月号に掲載されましたのでそこから一部を引用します。

...西田先生は私が長年私淑している思想家で、京都帝国大学の学生時代に先生から直接講義はうけてはいないが、その著作は何冊も読んでおり、いまも私の思想や行動における一つとなっている。

私が西田先生を尊敬するのは、西田先生が明治維新後の近代日本において、「いかにすれば日本が発展するか」を考えつづけた人物だからである。...西田先生は、先生の基本的な着眼点である「場の論理」を用いて日本人のアイデンティティを説き、国家としての日本の行き方を考えたのである。



西田博士の墓を参拝する李登輝氏(中央)



哲学館内を丁寧に見学する李登輝氏(右)

そして李氏は、台湾の現況を嘆き哀しむのではなく、そのアイデンティティの確立に向けて、西田哲学がその助けとなると言います。

### 哲学館への思い

また李氏は、哲学館の建物自体についてもコメントをしています。

建物は世界的な建築家、安藤忠雄氏の設計で、日本らしい静けさを感じさせる非常にシンプルなものであった。装飾はほとんどなく、壁にしてもタイルを貼らず、コンクリート剥き出しのままである。禅の一つの姿を表現した建物といえる。庭園も建物に劣らず見事で、開館は2002年とのことだが、今後もっと有名になるのではないだろうか。

安藤建築の中にある伝統的な「日本らしさ」をしっかりと理解すること一つを見ても、李登輝氏の日本理解の深さが感じられます。

目次			
李登輝 前台湾総統が来館	1	平成17年度 事業予定	6
特別企画展「禅を知る」開催	2	(予告) 西田幾多郎哲学講座 / 寸心読書会	6
野外学習 長野方面	4	(予告) 第25回夏期哲学講座	7
クリスマスコンサート	5	平成16年度の寄附・寄託・購入品	8
西田幾多郎博士作品を吟ずる第2回全国吟詠大会	5	編集後記 / アクセス	8